

氏名	藤 原 久 義
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 9 4 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和39年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学 位 論 文 題 目	実験的マウス白血病に関する研究
論 文 審 査 委 員	教授 平 木 潔 教授 小 坂 淳 夫 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 要 旨

教室において樹立された C58 マウスに自然発生したリンパ性白血病株 OHS-LL とその無細胞ろ液移植により病型変異を生じた骨髓性白血病株 OHS-ML に関して細胞学的, 免疫学的研究によりその異同が論じられたが, 著者は細胞移植の面からこれを検討し次の如き成績を得た。即ち第 1 編では同系マウスへの移植により腹腔内移植率は 100 % であり且つ白血病細胞 1 ケでも移植可能であり, 性, 年令, 移植細胞数及び移植臓器による両株間の相違はみられず, 移植部位の変化とリンパ腺腫脹は OHS-LL の方が強い。第 2 編では白血病細胞の抵抗性について検討したが, 温度, 滲透圧, 凍結融解及び凍結乾燥に対しては両株間に相違なく, OHS-LL の方が酸性溶液に対する抵抗性が強く, X 線照射に対して感受性が強い。又ホルマリン, 三塩化さく酸及びマーズニンに対しては両株間に多少の抵抗性の相違を認めた。第 3 編では他系マウスへの移植につき検討したが, OHS-ML の方が移植率は大きくその経過は OHS-ML では同系マウスへの移植と同様であるのに比し, OHS-LL では経過遷延し異常経過を示した。

昭和37年 5 月 第24回日本血液学会総会に於いて発表

昭和37年10月 第21回日本癌学会総会に於いて発表

昭和39年 9 月 岡山医学会雑誌第76巻7, 8, 9合併号に掲載

論文審査の結果の要旨

藤原久義提出の「実験的マウス白血病に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

藤原久義は教室において樹立された C58 マウスに自然発生したリンパ性白血病株 OHS-LL とその無細胞濾液移植により病型変異を生じた骨髓性白血病株 OHS-ML に関してその異同につき細胞移植の面からこれを検討した。第1編では同系マウスへの移植により腹腔内移植率は100%であり且つ白血病細胞1ケでも移植可能であり、性、年令、移植細胞数及び移植臓器による両株間の差異は認められず、移植部位の変化とリンパ腺腫脹は OHS-LL の方がやや強いとのべ、第2編では白血病細胞の抵抗性につき検討し、温度、滲透圧、凍結融解及び凍結乾燥に対しては両株間に差異はなく、OHS-LL の方が酸性溶液に対する抵抗性が強く、X線照射に対しても感受性が強い。又薬剤に対する抵抗性にも両株間で多少の差異を認めたと述べている。

又第三編では他系マウスへの移植につき検討したが、OHS-ML の方が移植率は大でその経過は OHS-ML では同系マウスへの移植と同様であるのに比し、OHS-LL では経過遷延し異常経過を示したとのべた。

以上全編を通じて OHS-LL 及び OHS-ML 両株白血病細胞の移植性につき検討を行い新知見を得、更に両者を比較検討してその異同を明瞭にしたとのべた。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。